

「宇都宮市第2期SDGs未来都市計画」の策定について

1 策定の目的

- 本市においては、令和元年度に内閣府から「SDGs未来都市」の選定を受け、持続可能な開発目標の達成に向けて策定した「宇都宮市SDGs未来都市計画」（令和元年度～令和3年度）に基づき、SDGsの達成に貢献してきたところである。
- そのような中、本年度に現計画の計画期間の最終年度を迎えるところであり、人口減少、少子・超高齢社会の急速な進行や、全国的な潮流である脱炭素社会の構築の加速化など、これまで以上にSDGsの達成に貢献していく必要があることから、「宇都宮市第2期SDGs未来都市計画」を策定する。

2 計画の位置づけ

- 内閣府から選定された「SDGs未来都市」として、全国のモデルとなる計画
- SDGsの達成に貢献するためのリーディングプロジェクトと、「第6次宇都宮市総合計画」の施策・事業を体系的に取りまとめたもの



HELLO, NEW CITY.

～新しいまちの暮らしスーパースマートシティ
うつのみや 始動～



3 計画期間

令和4年度から令和6年度までの3か年

4 策定経過

令和3年 8月 内閣府による進捗の評価

令和4年 1月 「自治体SDGs推進評価・調査検討会（内閣府附属機関）」
から意見書の受領

「SDGs人づくりプラットフォーム」から意見を聴取

2月～3月 パブリックコメントの実施

5 計画の内容・特徴

(1) 内容

宇都宮市第2期SDGs未来都市計画【概要版】

別紙1

「^{ムーブ} ^{ネクスト} ^{うつのみや} MOVE NEXT UTSUNOMIYA」概要・事業イメージ

別紙2

(2) 特徴

ア 「スーパースマートシティ」の実現を通じたSDGs達成への貢献

車が運転できなくても誰もが移動しやすく、商業や医療、教育などの様々な都市の機能や魅力を楽しみ、住み慣れた地域で安心して暮らせる「NCC」の形成をまちづくりの基盤としながら、「人」と「デジタル」を原動力に、

- ・ 地域住民の絆を深め、共に支え合うことができる「地域共生社会」（社会）
- ・ 誰もが活躍し、多種多様なモノが交流する「地域経済循環社会」（経済）
- ・ 二酸化炭素排出量を実質ゼロとし、未来への責任を果たす「脱炭素社会」（環境）

の3つの社会が融合した全国モデルとなる都市をいち早く構築するまちづくりを推進することで、SDGsの達成に貢献する。

イ リーディングプロジェクトの設定

スーパースマートシティの基盤となる「NCC」が、「つくる」から「つかう」ステージへと躍進する「NCC 第2章」の幕開けを契機に、本市のSDGsの達成に大きく貢献していくため、3つの取組をリーディングプロジェクトに位置づける。

① 「^{ムーブ} ^{ネクスト} ^{うつのみや} MOVE NEXT UTSUNOMIYA ～乗らないなんて『もったいない』～」

「公共交通への利用促進」を図ることで、脱炭素型ライフスタイル・ワークスタイルへの転換や、外出機会の増加による健康増進、まちの交流や賑わい創出による地域経済の活性化などにつなげ、まちづくり全般に寄与していく。



② 「宇都宮ライトパワー株式会社（地域新電力会社）」による再エネ地産地消プロジェクト

「宇都宮ライトパワー株式会社」によるLRTや市有施設等への市内の再生可能エネルギーの供給に加え、今後は、小売電気事業による収益を活用した地域還元事業を実施し、再エネを活用した自律的好循環を形成していく。

③ 「SDGs人づくりプラットフォーム」の充実

市民・事業者がSDGsを「知る」ステップから「実践する」ステップと移行できるよう、普及啓発や会員同士の交流を増やすとともに異業種間の連携強化を図るなど、取組等の充実を図る。

●基本的事項

(1) 計画の目的

人口減少、少子・超高齢社会の急速な進行や、全国的な潮流である脱炭素社会の構築の加速化など、これまで以上に、SDGsの達成に貢献していく必要があることから、策定するもの

(2) 計画の位置付け

内閣府から選定された「SDGs未来都市」として、全国のモデルとなる計画であり、SDGsの達成に貢献するためのリーディングプロジェクトと、「第6次宇都宮市総合計画」の施策・事業を体系的に取りまとめたもの

(3) 計画期間

2022年度～2024年度(3か年)

1 将来ビジョン

【2030年のあるべき姿】

子どもから高齢者まで、誰もが豊かで便利に安心して暮らすことができ、夢や希望がかなうまち「スーパースマートシティ」

【2030年のあるべき姿の実現に向けた優先的なゴール、ターゲット】

⇒ 「スーパースマートシティ」の実現を通して、SDGsの達成に貢献する。

HELLO, NEW CITY.

～新しいまちの暮らしスーパースマートシティうつのみや 始動～



SDGsの達成に向けて



原動力 「人」・「デジタル」

経済

誰もが活躍し、
様々なモノが交流する
「地域経済循環社会」

社会

絆を深め、
共に支え合う
「地域共生社会」

環境

未来への
責任を果たす
「脱炭素社会」

持続可能なまちづくりの基盤
「NCC」

KPI	KPI	KPI
年間の観光入込客数 2016年:1,483万人 ⇒ 2022年:1,550万人	市内人口に占める都市拠点・ 地域拠点の人口割合 2016年:19.4% ⇒ 2022年:20.1%	太陽光発電設備導入 世帯数(累計) 2016年:15,138世帯 ⇒ 2022年:21,000世帯
市内総生産 2014年:2,719,222百万円 ⇒ 2022年:2,956,071百万円	本市で子育てをしていき たいと思う親の割合 2016年:95.9% ⇒ 2022年:98.5%	市民1人1日当たりの 資源物以外のごみ排出量 2016年:781g ⇒ 2022年:734g
女性就業率 2016年:60.8% ⇒ 2022年:62%	公共交通夜間人口カバー率 2017年:89.8% ⇒ 2022年:100%	もったいない運動 に取り組んだ人数 2016年:36,896人 ⇒ 2022年:43,800人
	災害などの危機に備えている 市民の割合 2017年:44% ⇒ 2022年:46%	

※ 第2期未来都市計画の計画期間は2022～2024年度であるが、総合計画の施策やKPIを準用しており、2022年度の総合計画の改定を踏まえて再改定するため、KPIの目標値は引き続き2021年度または2022年度とする。

2 自治体SDGsの推進に資する取組

① リーディングプロジェクト

スーパースマートシティの基盤となる「NCC」が、「つくる」から「つかう」ステージへと躍進する「NCC 第2章」の幕開けを契機に、本市のSDGsの達成に大きく貢献していくため、3つの取組をリーディングプロジェクトに位置付ける。

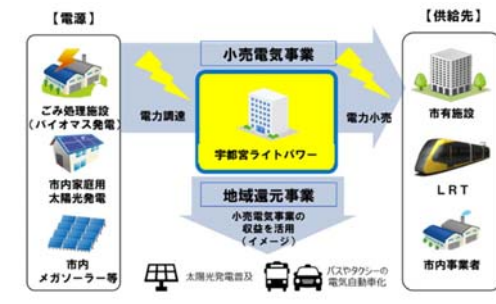
KPI	公共交通の年間利用者数	2017年:3,351万人 ⇒ 2028年:3,600万人
KPI	再エネの地産地消によるCO2の削減効果	2019年:なし ⇒ 2021年:4,500(t-CO2)
KPI	SDGs関連セミナーの参加者数	2019年:なし ⇒ 2021年:540人(3年間の合計)

主なゴール	取組
-------	----



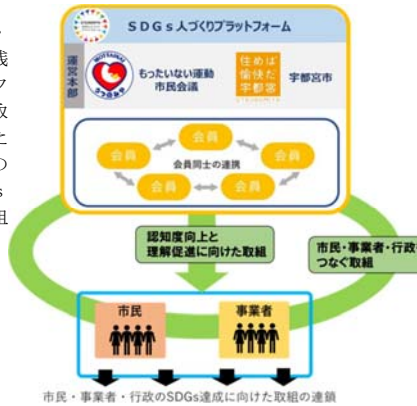
①-1 「MOVE NEXT UTSUNOMIYA ～乗らないなんて『もったいない』～」
LRT、バス、端末交通からなる階層性のある公共交通ネットワーク(ハード)と、上限運賃や乗継割引などの施策(ソフト)を一体的に提供し、「もったいない運動市民会議」等と連携して「公共交通への利用促進」を図り、持続可能な都市基盤である「NCC」を推進することで、脱炭素型ライフスタイル・ワークスタイルへの転換や、外出機会の増加による健康増進、まちの交流や賑わい創出による地域経済の活性化などにつなげ、まちづくり全般に寄与していく。





①-2 「宇都宮ライトパワー株式会社(地域新電力会社)」による再エネ地産地消プロジェクト
「宇都宮ライトパワー株式会社(地域新電力会社)」による、本市の電力の固定価格買取期間が終了したバイオマス発電(クリーンパーク茂原)や市内の家庭用太陽光発電による再生可能エネルギーを、約240の市有施設に供給しており、再生可能エネルギーの調達や2023年3月に開業予定のLRTなどへの供給を拡大していくことで、「二酸化炭素排出量の削減」や「地域経済の活性化」の更なる推進を図る。今後は、「宇都宮ライトパワー株式会社(地域新電力会社)」の小売電気事業による収益を活用して、市内事業者の参画・連携を図りながら、市内の再生可能エネルギー設備の拡大や、公共交通等の脱炭素化、市民生活の質の向上に資する事業など地域課題の解決を図る地域還元事業を実施し、経済、社会、環境の統合的向上を図る自律的好循環を形成していく。





2 自治体SDGsの推進に資する取組

主なゴール	取組
 	<p>①-3 「SDGs人づくりプラットフォーム」の充実</p> <p>市内のSDGsの認知度向上に伴い、市民・事業者がSDGsを「知る」ステップから「実践する」ステップへと移行できるよう、プラットフォーム会員等と連携し、SDGs達成に向けた取組事例等の発信の拡大や、SDGs達成に向けた新たな取組創出を目指すプラットフォーム会員の交流活性化、会員による市民・事業者のSDGsの実践を促進する自主的な活動の実施など、取組等の充実を図る。</p>  <p>市民・事業者・行政のSDGs達成に向けた取組の連携</p>



② 子育て・教育に関する取組

KPI	宇都宮市で子育てをしていきたいと思う親の割合	2016年:95.9% ⇒ 2022年:98.5%
 	<p>②-1 子育てしやすい環境の整備</p> <ul style="list-style-type: none"> 結婚・妊娠・出産・子育ての切れ目のない支援 継続的な待機児童解消に向けた教育・保育施設等の供給体制の確保 【新規】こども医療費助成の対象年齢を高校3年生相当まで拡大 【新規】親と子どもの居場所の運営や子ども食堂・青少年の居場所への支援 <p>②-2 グローバル社会・情報社会の急速な進展に対応できる教育の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> 全小中学校における「宇都宮学」の推進 【新規】1人1台端末によるGIGAスクール構想の実現 	



③ 健康・福祉に関する取組

KPI	健康寿命の延伸	2016年:男性 79.56歳、女性 83.58歳 ⇒ 2022年:平均寿命の増加分を上回る健康寿命の増加
 	<p>③-1 NCCと連携した健康づくりや地域包括ケアシステムの深化・推進</p> <ul style="list-style-type: none"> 運動習慣の定着化や検診受診の促進等を図るため、ICTを活用した健康づくり事業の推進 【新規】立地適正化計画で定めた都市機能誘導区域・市街化調整区域の地域拠点区域内への介護保険サービス提供施設等の設置誘導 【新規】高齢者を対象にポイントを地域連携ICカードに付与するなど、さらなる外出促進による健康づくりの推進をはじめとした高齢者の福祉の推進 【新規】地域包括支援センターの機能強化や多様な主体が連携した支援体制の充実 	



④ 安全・安心に関する取組

KPI	災害などの危機に備えている市民の割合	2017年:44% ⇒ 2022年:46%
 	<p>④-1 災害に強いまちづくりの推進</p> <ul style="list-style-type: none"> NCC形成の推進による強靱化の推進 <ul style="list-style-type: none"> 居住誘導による地域コミュニティの維持・活性化を通じた地域防災力の向上 都市機能の誘導による災害時に必要な医療や物資の効果的な供給確保 【拡充】「流す」「貯める」「備える」に基づく総合的な治水・雨水対策の推進 <ul style="list-style-type: none"> 河川整備、下水道雨水幹線整備など治水対策の推進 田んぼダム等の普及、公共施設等における貯留、浸透施設の整備など流域対策の推進 ハザードマップの充実など減災対策の推進 	



⑤ 魅力創造・交流に関する取組

KPI	年間の観光入込客数	2016年:1,483万人 ⇒ 2022年:1,550万人
 	<p>⑤-1 戦略的観光事業の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ジャパンカップサイクルロードレースやFIBA 3x3ワールドツアーうつのみやオープンナーなどの国際イベントを活用した誘客促進 誘客促進や滞在時間の増加に向けた市内周遊の拠点としての「餃子通り」の機能強化 【新規】MICE開催に合わせた観光客誘致の強化 <p>⑤-2 大谷の地域資源のフル活用</p> <ul style="list-style-type: none"> 観光地にふさわしいインフラ構築に向けた計画的な道路整備やグリーンスローモビリティの導入 【新規】(仮称)大谷観光周遊拠点施設の整備 	

⑥ 産業・環境に関する取組

KPI	女性就業率(25~44歳まで)	2016年:60.8% ⇒ 2022年:62%
 	<p>⑥-1 女性の雇用創出・就労の促進</p> <ul style="list-style-type: none"> 大学生等を対象にした女性活躍に取り組んでいる企業等と連携したインターンシップ事業の実施 フレッシュマン・若年夫婦・子育て世帯等家賃補助金の支給 <p>⑥-2 再エネの地産地消の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> 【新規】「宇都宮ライトパワー株式会社(地域新電力会社)」による再エネの地産地消 【新規】清原トランジットセンターをはじめとしたLRT沿線における脱炭素化促進事業 <p>⑥-3 廃棄物資源の有効活用</p> <ul style="list-style-type: none"> 【新規】剪定枝や小型家電等の拠点回収事業による資源化の推進 <p>⑥-4 「もったいない運動」の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> 市民総ぐるみによるもったいない運動の推進 【新規】「公共交通の利用促進」などSDGsの達成に貢献する取組との連携 	

⑦ 交通に関する取組

KPI	公共交通夜間人口カバー率	2017年:89.8% ⇒ 2028年:100%
 	<p>⑦-1 拠点化の促進</p> <ul style="list-style-type: none"> 宇都宮駅東口などの都市拠点への医療・福祉、子育て支援、商業施設等の整備誘導 自転車や電気自動車等の脱炭素な末端交通の活用 <p>⑦-2 拠点を結ぶ総合的な交通ネットワークの構築</p> <ul style="list-style-type: none"> 全国初の全線新設となるLRT整備の推進 バス路線の再編、地域内交通の確保・充実 【新規】全国初の地域連携ICカードによる上限運賃制度 自転車走行空間整備の推進 	

3 推進体制

【各種計画への反映】

「スーパースマートシティ」の実現を通してSDGsの達成に貢献するという考え方を基本とし、宇都宮市まち・ひと・しごと創生総合戦略(2020-2024)をはじめとした他の行政分野の各個別計画についても、計画策定・改定時にSDGsの視点を反映している。

【行政体内部の執行体制】

市長をトップとした、全部局長で構成したうつのみやSDGs推進本部を設置し、全庁一丸となってSDGs達成に貢献する。

【ステークホルダーとの連携】

(域内外の主体) SDGs人づくりプラットフォーム、宇都宮市もったいない運動市民会議、宇都宮市内大学、短期大学、専門学校等との連携、Uスマート推進協議会、国際スポーツ大会(国内の主管団体) など
 (国内の自治体) 栃木県、北関東中核都市連携会議、芳賀町
 (海外の主体) 市民交流・経済交流における関連都市、国際スポーツ大会(海外の主管団体)

公共交通利用促進運動“MOVE NEXT UTSUNOMIYA”の概要・事業イメージ

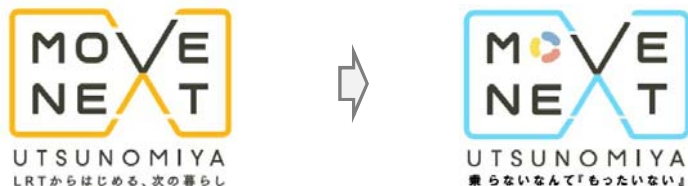
1 運動の概要

(1) メインコンセプト

- ・ 「つくる」から「つかう」ステージへの躍進をテーマとし、市民や企業の皆様に、公共交通をより身近な存在として感じていただき、一人でも多くの方の利用に結び付け、更なる公共交通の充実につなげていく好循環の創出
- ・ 公共交通の利用促進を通じて新しいライフスタイルへの転換を図り、「脱炭素型社会」「地域経済循環社会」「地域共生社会」の実現に貢献

(2) キャッチコピーとロゴビジュアル

“MOVE NEXT UTSUNOMIYA ~乗らないなんて『もったいない』~“



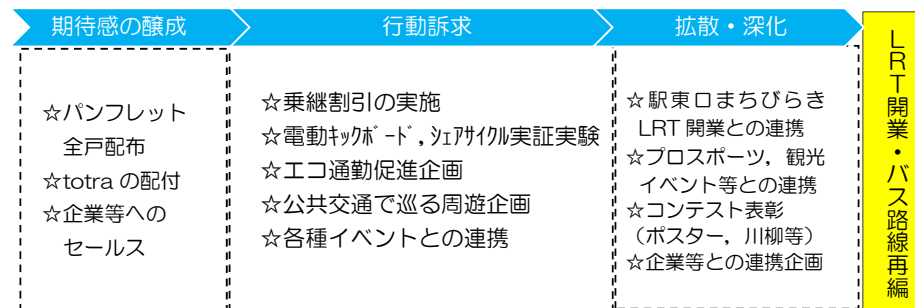
- ⇒ 「つくる」から「つかう（きうごく：ムーブ）」次（：ネクスト）のステージ
- ⇒ 既存の「MOVE NEXT」のロゴ・デザインを踏襲しつつ、地域連携ICカード“totra”を想起させるカラーとデザインにより、多様な公共交通が織りなす多彩なライフスタイルを表現

2 事業の展開

- ・ 「期待感の醸成」「行動訴求」「拡散・深化」のフェーズに分けて展開
- ⇒ 「期待感の醸成」：本市の公共交通がどのように変わり、便利になるのか、などを知らしてもらうため、パンフレットの全戸配布に加え、中高生等へtotraを配付
- ⇒ 「行動訴求」：本市の公共交通ネットワークの利便性を高め、実感していただくため、LRT・バス・地域内交通間の乗継割引の実施や電動キックボード、シェアサイクルの社会実験等を実施
- ⇒ 「拡散・深化」：より多くの方に参加していただけるよう、駅東口地区のまちびらきやLRT開業、プロスポーツ、観光分野のイベントとも連携し、相乗効果を発出
- ・ 駅東側へのLRTの導入や路線バスの再編、及び将来的な駅西側へのLRTの導入に向けた機運を醸成

<展開イメージ>

※ 記載は取組案



3 推進体制

- ・ 各行政分野と連携するとともに、交通事業者や各種団体、各イベント等と連携し事業を推進



個人に対する意識転換・利用促進

企業等に対する意識転換・利用促進

各分野と連携した取組

市民と企業の公共交通利用促進によるSDGsへの貢献

【期待感の醸成】

MOVE NEXT × 健康で快適な宇都宮

「パンフレット全戸配布」

公共交通の便利な使い方などを紹介するパンフ

地域ごとの特性を踏まえた個別情報の提供

MOVE NEXT × 宇都宮

「totra配付」

市内の中学生、高校生相当世代に1人1枚配付(約3万枚)

配付方法：中学生は学校経由で配付
高校生相当世代は郵送で配付

【行動訴求】

MOVE NEXT × 宇都宮

「乗継割引の実施」

LRT・バス・地域内交通間の乗継割引の実施
(LRTは開業後に実施)

バス 地域内交通 LRT

MOVE NEXT × 宇都宮

「エコ通勤」促進企画

エコ通勤に取り組む企業にtotra配付やバスラッピング広告等のインセンティブ

【拡散・深化】

MOVE NEXT × 新モビリティ

「電動キックボード・シェアサイクル実証実験」

中心市街地における導入に向けた実証実験

バス停留所や公共施設等へのポート設置

MOVE NEXT × まちびらき × 宇都宮

「駅東口まちびらきやLRT開業との連携」

公共交通への愛着を醸成する機会の提供

MOVE NEXT × 宇都宮

「リアル宇都宮学」

各種イベントとの連携企画により、宇都宮学をリアルに体験

MOVE NEXT × 宇都宮

「エコ通勤」促進企画

エコ通勤に取り組む企業にtotra配付やバスラッピング広告等のインセンティブ

イベントブースの運営やアンケート等の協力、SNS等での発信等

MOVE NEXT × 宇都宮

大学との連携

ベンチャー企業等との連携による利用促進サービスの創出

【地域共生社会】

MOVE NEXT × 宇都宮

プロスポーツ連携企画

公式HP、SNS等での情報発信や市民向け教室、来場者向けキャンペーンなどの連携企画

【地域経済循環社会】

MOVE NEXT × 宇都宮

各種イベントとの連携企画

「公共交通で巡る地域の魅力再発見企画」

公共交通により地域の魅力を再発見する周遊企画をバス利用ユーザーに実施

【脱炭素社会】

MOVE NEXT × 宇都宮

「カーボンニュートラルキャンペーン」

「もったいない×公共交通」をテーマにしたポスターや川柳などのコンテスト